

追悼

## 田中重徳先生を偲んで

琉球大学医学部解剖学第一講座初代教授を務められた田中重徳先生が去る平成25年4月29日、享年69歳で永眠されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

自然発生的に、二期生で

「先生の追悼文をみんなで綴りましょう」ということになりました。



解剖学終了時の感想文が縁で先生と個人的にお話できる機会に恵まれました。

先生は医学部設立とほぼ同時に琉大に赴任し、老人ホーム等を訪問し解剖体の確保に尽力しておられました。

特筆すべきは、自らが琉大医学部解剖篤志会である『でいご会』の会員であられたことです。

金沢大学に異動した後も「自らの遺体を琉大医学部の学生の教育のために捧げたい」と仰っていました。

遠隔地でお亡くなりになったため琉大への献体はかないませんでした。我々の母校のことを思い続けて下さった尊いお気持ちを私たちは忘れてはいけないと思います。

私はこの数年、年賀状のやりとりをしておりました。

晩年の年賀状の文面には

『余生は少し人のお役に立てることをしたいと老後の計画をしておりましたが、自分の健康を守ることで精いっぱいになってしまいました。皆様のご健勝をお祈りいたします。』と記されておりました。

その時にはすでに病魔と闘っておられたのだと思います。

私は文面を特に気にすることなく過ごしてきましたが、今になって、お会いしておけばよかったと後悔しております。

医学部専門過程の初期に先生のような素晴らしい方に出会えたことは本当に良かったと思っております。御冥福をお祈りいたします。

知念 克也 練馬総合病院 病理診断科

若造で人生経験の少なかった当時の私には先生のすごさはよくわかりませんでした。今になってそれに気がつきました。

ラテン語満載の講義は、『いかにも医学部で勉強している』というアカデミックなインパクトをうけました。

あのような講義は、今の大学ではないと思います。

磯 淳典 えべおつファミリークリニック院長

初めて見るラテン語、事もなげにさらさらと板書されるきれいで膨大な図、艶のある声（なぜかきれい！という印象）で、粛々と進められる講義は、大変だけど好きでした。

若かりし日の脳細胞は砂漠に水を撒くように知識を吸収しましたが、蒸発も速く、試験結果はいまいちでした。

仲間と遅くまで指紋がなくなるほど実習を続け、傍脊椎交感神経幹を立体的に剥離・露出した時、田中先生は細い目をさらに細めて褒めて下さいました。

百次 仁 那覇市立病院 脳神経外科

医学生と言えば解剖実習というイメージでした。

臨床で患者さんを診るようになり、もっとちゃんと解剖学を勉強していたらと思ったことがしばしばありました。先生が「仏の田中」と呼ばれていたことや、あまり表情を変えずご指導されていたお姿を思い出します。

溝田 美智代 今村病院 小児科

### 経 歴

- 昭和43年3月  
東北大学医学部医学科卒業
- 昭和43年5月  
岩手医科大学 助手 医学部解剖学講座
- 昭和45年1月  
東北大学 助手 医学部解剖学講座
- 昭和49年2月  
医学博士の学位授与（東北大学）
- 昭和50年1月  
秋田大学 助教授 医学部解剖学講座
- 昭和50年9月  
ドイツ連邦共和国  
ビュルツブルグ大学医学部解剖学 留学
- 昭和52年7月  
帰国
- 昭和54年7月  
琉球大学 教授 医学部設置準備室
- 昭和54年10月  
琉球大学 教授 医学部解剖学講座
- 昭和62年7月  
金沢大学 教授 医学部解剖学講座
- 平成13年4月  
金沢大学大学院医学系研究科 教授
- 平成20年4月  
金沢大学医薬保健学域 教授
- 平成21年3月  
金沢大学医薬保健学域 教授  
定年退任
- 平成21年4月  
金沢大学名誉教授
- 平成25年4月29日 ご逝去